

大阪府立天王寺高等学校
平成30年度 第3回学校運営協議会

日時：平成31年1月26日（土）10：00～11：30

場所：校長室

1. 開会

2. 会長挨拶

本年度第3回、まとめの運営協議会となる。来年度学校経営計画の承認もある。ご審議よろしく願います。

3. 校長挨拶

インフルエンザが流行しているが、生徒には大きな広がりは見えない。教室での換気の励行など、対策が功を奏したと思われる。文化部活動ガイドラインや働き方改革、高大接続改革など、教育をめぐる様々な国の動きがある。

4. 協議

(1) 平成30年度学校経営計画及び学校評価（案）について

学校教育自己診断の結果と分析、第1回・第2回の学校運営協議会からの意見については、資料のとおり。本年度の取組み内容についての自己評価は、現時点での評価指標ごとの数値等を記載している。年度末に向けて、最終的な数値を追記して公表する予定。

(2) 平成31年度学校経営計画（案）について

「1. めざす学校像」については平成30年度から変更なし。生徒に育みたい力として「優しさ」を挙げているところは他校にはあまり見られない本校の特徴と考えている。「2. 中期的目標」については、いくつかの文言修正を行った。文武両道の追求については、『大阪府部活動方針』を踏まえ、バランスのとれた」を文頭に追記。「高大接続改革における主体性の評価」をパフォーマンス評価の項目に付け加えた。また、SSH重点枠の更新をめざし、広域での拠点校の取組み策定を目標に挙げた。これらの「学校運営に関する基本的な方針」について、承認をいただきたい。

(3) 学校教育自己診断結果について

生徒への質問「学校の授業だけで、進路希望達成に必要な学力をつけてくれる」が昨年より2ポイント上昇したが、70%台とあまり高くない。質問内容が少し誤解を生んでいるかもしれない。学校の授業時間の中で全てやってほしいと思う生徒がいるようだが、基本的な自宅での学習は当然必要であり、この点に関して認識にずれがある可能性がある。質問を来年度は検討する。授業に関しては、中学と比べて高校はレベルが高く、すぐに理解できないこともある。自学自習の重要性について生徒にしっかりと伝えていく。

清掃活動に関して、クリーンスト賞という奨励制度を導入し、生徒が競いあって励みにできるような工夫が効を奏した。

その他に関しては昨年と大きな変化ない。保護者の回答回収率が80%を超えており、本校教育への高い関心がうかがわれる。

(4) 第2回授業評価アンケート結果・表彰生徒・授業力向上の取組みについて

- ・一部の質問項目を生徒にわかりやすいように変更した。授業満足度の平均は 3.53 であった。第1回とあわせた平均値は 3.47 となった。
- ・近畿地区での大会に数多くの部活動が出場を果たした。放送部は、NHK全国放送コンテストにラジオドラマ部門とアナウンス部門で出場、ラジオドラマ部門は入賞した。将棋部も近畿総文祭と全国新人大会に出場するなど、運動部文化部とも活躍している。科学オリンピックでは、物理チャレンジで2名が日本代表候補に選ばれている。読書感想文全国コンクールでも優良作品に選ばれたが、受賞した生徒が表彰式よりも本校の徒歩訓練行事を優先したのは、いかにも天高生らしいところである。
- ・各教科で積極的に研究授業・公開授業を行った。他府県や府内の学校を視察したり、他府県からの見学を受け入れるなど交流もさかんである。今年も、台湾と韓国の高校が来校し、研究交流を行った。

(5) SSHの報告

今年度も基礎枠と重点枠の指定を受けている。来年度は基礎枠の指定校数を増やすために予算が減ると聞いている。

2年次の創知Ⅱで課題研究を実施。前期はディベートと研究準備を行っている。ディベートは社会科が担当し、充実してきた。来年度は弁護士などをジャッジに招いてはどうかと考えている。研究活動に関するルーブリックを作り、他校にも配布していきたい。台北第一女子高級中学や慶南女子高校との研究交流は刺激の多いイベントになっている。今年度の天高アカデミアは14回を予定。はやぶさ2の開発に携わっている人が来てくださったり、13回目は国語の誕生物語をテーマにするなど、文理問わず実施している。

重点枠の取り組みとしては、各校を巻き込みながら、大阪サイエンスデーを二部形式で開催した。第一部はポスターセッションに加え、海外研修を発表する場を設けた。本校卒業生によるリケジョイイベントなど、さらに充実させたい。近畿サイエンスデー、ウルトラレッスン、科学オリンピック講座なども重点枠の活動として行っている。アメリカ研修は今年からは参加者の課題研究を中心に実施した。文理融合の研究テーマで、事前研修を含め1年間のプログラムとした。

8校連絡会議では、課題研究の評価について統一的な枠組みを構築しようという取り組みを始めた。文科省の資料に取り上げられるなど注目されている。

5. 質疑応答及び意見交換

委員：先生方も生徒さんも授業だけでなくこれだけの多くの活動をし、さらに部活動加入率が90%、どのように1日を生活しているのか、どのようにコントロールされているのか考えさせられるところ。今回報告していただいたことはぜひ継続していただき、後退することがないようにどんどん取り組んでいただきたい。

委員：大学入学共通テストのプレテストがあり、記述問題の正答率の低さが話題になったが、中学の全国学力テストの数学や国語も読み取りの量がものすごく多い。普段そういうテスト対応をしていないので、非常に大きな課題。

委員：文章を情報としてとるという国語という教科の学力に対する転換があり、プレテストでは、それに合わせて問題を変更してきている。そういう意味で膨大な量を読ま

せる形になった。

委員：大学の入試制度がこのような形に変わり、高校の入試制度も変わっていくなら、中学校もテスト形式を変えていかねばならないのかなと少し感じたところ。

委員：生徒に育みたい力のところにも優しさと書いてあるように、天王寺高校の生徒は日本の社会やグローバル世界の中でリーダーになっていくと思うので、その立場になったときに弱者に対する優しさというか、人権感覚を持ってほしい。その部分を大事にしていきたい。

委員：多様で積極的な活動に感心している。SSH の取り組みも素晴らしい。このような活動をきちんとやっていけば、めざす学校像とか育みたい力が身についていくのだろう感じる。そのかわり大変なところもあるのかな、と。教員の勤務時間が少し長くなっているあたりは考えていけない面もあるのかな、と思うところ。あとは、従来から話題になるトイレのことだが、施設面の問題というところで、見通しがついていないということなのか。

事務局：震災と台風の被害のため、なかなか目途がたっていない状況。

委員：清掃活動に対する評価は上がってはいるが、生徒と教員の評価に差があるのは、生徒にはやはり不満があるのではないか。実際トイレを使う身として。

事務局：トイレに関してはほぼ全ての学校の生徒が匂いがきついとネットに書き込みがある。一方で、トイレの整備が完了した学校の生徒はトイレがきれいとしている。これは一学校だけの問題ではなく、大阪府として対応してもらいたいところ。

委員：これだけいろいろ活動していると、生徒は読書をする余裕はあるのだろうか。読書をしている学ぶということも多いと思うが。

事務局：読書に関しては、国語科が読書ノートを作って生徒に持たせている。生徒は感想や意見を書き込んで提出し、教員がコメントをするという取り組みをしている。教養としての読書をしっかり身に付けてもらうということを教科の中でも行っている。机の上に本を置いている生徒も多く、生徒の様子を見ていると読書好きは多い。

委員：非常に立派な活動をされていてすごいと思う。

委員：息の詰まっている生徒はいないかという懸念についてはどうか。

事務局：息の詰まっている生徒はいると思う。最近、センター試験の結果が思わしくなかった生徒が来て、志望校の話をした。そういう話が始まったらとにかく聞くしかない。話を聞いているうちに、第一志望の大学に出願するために背中を押してもらいたくて来たと言うのだが、それまでに30分くらいは経っていた。この、ひたすら聞くという時間は、いわゆる事務仕事を脇に置いてでもやらなくてはいけない時間。多くの教員がいろんな場面でそれをやっている。これは働き方改革とは真逆のことになっているところでもある。また、保健室が一手に引き受けている部分もあります。

委員：働き方改革とは真逆というのはその通りで、先生方に傾聴というかカウンセラーのようなことをお願いしているところもあると思う。生徒たちがつぶれないようにフォローをお願いできればと思っている。

委員：チーム天王寺のチームがやっぱりいいなと思う。グループではなくチームということ、つまり、それぞれができることをやればいい。これはクラスでも当てはまると思う。行事だけでなく掃除当番などでも力の発揮できる生徒がいるはず。そういう風

にクラスでもチームという感覚が育てば社会に出ても、チーム的な考え方が活かせるのではないかと、思う。やっぱりチームという考え方は素敵だと思う。

先ほどトイレの話が出たが、洋式トイレは、現在どれくらい設置されているか。

事務局：北館の各階ごとに一つずつ設置している。

委員：匂いのこともあるが、洋式トイレもこれから増やしていったらあげないと今の生徒にとってはしんどいかもしれない。天高だけで言っても仕方のない話だが。

委員：チームというのは生徒たちの居場所を確保するという意味もあるかと思うので、よろしく願います。

委員：トイレやエアコンの話に関してずっと言ってきたのだが、国や自治体は、学校にはなかなかお金を出してくれない。この問題はここだけで話していても仕方ないと思う。天王寺高校が代表としていろいろな問題点を、予算を確保するという意味合いも含めて提起し、大阪府立の学校の状況を良くしていかないといけないと思う。先生方が、本当によくしていただいているのは目の当たりにしている。塾に行かなくても天高だけで完結できるという意識で先生方は指導してくださっている。ことあるごとに生徒指導をしていただき、さらには自習室開放の取り組みも。本当に先生方のボランティアで今の天高の良い空気がずっと流れているということには感服している。でもそれはなかなか続かない。働き方改革はある意味理解はできるが、今の状況を落とさないようにするためには、予算をもっともらい、人を確保しなければならないのではと思う。加配なしに現状を維持しながら働き方改革なんてありえない。協議会の先生方にもお知恵を借りて、どうやって働き方改革と整合性をとるか、質を落とさないで先生方の生徒に対する時間を確保していくかを考えないといけない。このままだと天高のレベルが下がっていくのでは、と懸念している。私自身もどうかしなければと悩んでいる。やはり、お金と先生の数を増やさないと厳しいのではないかと、思う。

委員：めざす学校像のところでは優しさという言葉を残していただいたのはうれしいことだと個人的に思う。生徒も先生方もかなり負担があると思うが、精神的にも肉体的にもいっぱいにならないように気を付けていただきたい。

これは質問だが、推薦入試が増えていく中で、学校全体としてはどのようなスタンスをとっておられるのか。

事務局：学校全体のスタンスは大きくは変わってはいない。傾向として国公立で推薦の間口が広がってきている。多面的評価を大学も導入してきている。従来の入試という一つの尺度だけでなく、より多面的な活動を見るという入試になっている。ただ、推薦入試でも結局センター試験を受けないといけないものがほとんど。そういう意味では生徒たちが浮足立つことはあまりないのでは、と考えている。

事務局：後期入試の枠が、推薦入試に移ってきたように思われる。入試の内容が天王寺がずっと取り組んできたことに追いついてきたと感じている。今回、国立大学の推薦入試を受けた生徒は、課題研究にしっかりと取り組み、海外研修にも参加、SSH 全国大会でも発表を行い、センター試験でも成果を出した。いろんなことを前向きに取り組んだ結果として推薦入試を受けている。試験後に「ありのままの自分を出せて楽しかった」と言っていたが、天王寺高校でいろんなことに取り組んだからこそ、そういうテストにマッチしたと感じている。

委員：学校がうまく回るためには、学年、分掌、教科としての3つのまとまりが必要だ
と思うが、天王寺はその3つのまとまりが本当に素晴らしいと思う。まさにチーム天
王寺。天王寺の様々な取り組みが大阪府下の高校全体に広がっていけば良いと思っ
ている。予算も限られる中、大変かと思うが、この素晴らしい活動を継続してほしい
と思う。それでは、平成31年度の学校経営計画については、承認していただくとい
うことでよろしいか。

平成31年度学校経営計画の「学校運営に関する基本的な方針」について、異議なく、
承認された。

6. 閉会